

## 審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和7年度 第4回甲州市介護保険運営協議会
開催日時	令和8年3月25日 午後2時 ~ 午後3時30分
開催場所	甲州市役所1階 市民ギャラリー
議題	(1) 日常生活圏域ニーズ調査等について (2) 次期甲州市高齢者いきいきプランについて (3) その他
出席委員	坂本昇委員、深澤告委員、天野真由美委員、山本充委員、 早乙女修一委員、田邊聡委員、矢崎聡委員、 宮原健一委員、古屋俊明委員、丸田一穂委員
会議の公開又は非公開の区分	公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	
傍聴人の数	0人
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	介護支援課 5名 TEL:0553-32-5066 (直通)
その他	甲州市民生委員児童委員連絡協議会長役員の交代により丸田一穂氏が、甲州市介護保険運営協議会委員就任

## 令和7年度 第2回甲州市介護保険運営協議会

### 1 開会

甲州市介護保険運営協議会規則第6条「会議の定足数」を満たしているため、本日の協議会は成立し開会とする

公益代表の民生委員児童委員連絡協議会長が変わられたため、改めて全員の自己紹介

### 2 介護支援課長挨拶

本日はお忙しいところご出席いただきありがとうございます

書面開催含めて第4回目となり、委員の皆様におかれましては、引き続き協議お願いいたします

市内の高齢化が一段と進んでいる状況、1年前65歳以上11066人(38,16%)、直近11015人38.5%。総人口が減っているため、高齢化率上昇している

介護保険制度の運営にも影響を与えるものである

高齢者ニーズ調査、在宅介護実態調査を実施した結果報告の場となる

次年度には調査結果を踏まえて、次期計画立案を行う

本日は忌憚のない意見をいただきたい

### 3 会長挨拶

前回、9月8日第2回実施され熱いさなかであったが、今は3月となり冬を越え春も近づいている

事前に送付していただいた資料に目を通していただいていると思うので、ぜひ忌憚のない意見をお願いする

今回で第4回となり、顔なじみにもなってきているため、是非リラックスして、柔軟な意見を出していただきたい

### 3 議事

会議録の公開について、会に諮っていただく

→全員異議なしのため公開とする

#### (1) 日常生活圏域ニーズ調査について(介護保険担当)

会長より、調査結果が膨大なため、項目ごとの審議を行ってほしいと提案あり

##### 1 あなたのご家族や生活状況について

独居高齢者、夫婦のみ世帯が6割程度、増加傾向

〈質疑応答〉

委員意見なし

##### 2 からだを動かすことについて

昨年と比べた外出の頻度が増えているが、前回調査時コロナウイルスのオミクロン株が増えている状況であったことが影響している

〈質疑応答〉

委員意見なし

3 食べることについて

大きな差異なし

4 毎日の生活について

大きな差異なし

5 地域での活動について

地域活動等への参加頻度が、増加傾向

コロナウイルスの5類移行が影響している

6 介護予防について

Q：委員

これからは介護予防の観点が必要になっていくのだと思われるが、市の介護予防教室があまり知らない、全く知らないの割合が50～70%程度と周知不足があるのではないか

A：事務局（高齢者支援担当）

周知不足であることを痛感した

玉宮地区でいきいき健幸教室が0人であったが、支部社協等を通じ意見をもらい、夏祭りにおいて周知を行い、現在、改善している

Q：委員

市の事業について、地域での運営を投げられてしまっているものもあると聞く  
現状を考えると、運営する人が働いている人も多く、なかなか運営が難しいところがあるのでは

A：事務局（高齢者支援担当）

おそらく通いの場のことであると推測するが、こちらは現在8か所開始している  
自主的な活動であり、実態として高齢化を感じるころもあるが、少しでもうまく運営できるよう支援していきたい

Q：委員

民生委員のほうで、補助金が出るので通いの場をと話が出たが、社協のサロンとの差がわからなく、一本化できないのかといった意見が出た

それぞれで補助金が出ていると承知しているが、どのように考えているか

A：事務局（高齢者支援担当）

サロンは共同募金等を使い、長年の歴史がある

通いの場は国の補助金を使用して行っている

サロンと通いの場は似通っている部分があることも事実であるが、通いの場はあくまでも介護予防の観点が強く、地域の身近な場所を通うことで現状の生活を続けていけるようにしていただく

サロンと通いの場が並走していくこともあり、時間帯で分けて、共存していくことも重要である

A：委員

いきいきサロンは介護予防が主体ではない

地域の人たちが自主的に集まって趣味などの活動を行っていただいている

数としては27、非常に多くの活動をしていただいている

Q：委員

実態を知ると、違いが分かってくるが、やはり市民に知られていない面が問題

通いの場は、介護予防を前面に周知を行うことが大切である

7 就労について

今回新規で調査した項目であり、現在も働いている方も多く、また最近まで働いていた人も多い

少子高齢化や年金受給年齢の変更などが影響している

〈質疑応答〉

委員意見なし

8 たすけあいについて

助け合える相手がいるかについて、「こども、親戚、孫」の項目減少

高齢者が地域で元気に暮らすためにあなた自身が協力できることについて、「特にない」が減少し、何かしら協力することを希望していると考えられる

〈質疑応答〉

委員意見なし

9 健康について

大きな差異なし

10 認知症に係る相談窓口の把握について

認知症の症状があっても入院治療が継続できる医療施設の充実が最も高い

認知症の状態に応じた適切なサービス体制の充実が増加

医療・介護両面のサービスを希望している様子が見受けられる

Q：委員

認知症予防のサプリなどもあり、認知症に対する意識も変化している  
実際に症状が出始めてからも長期間の付き合いとなるため、若い時から意識していきたい

自分の親族を見ていると100歳を超えているが認知症もなく過ごしている  
とても意欲的な人物で、能動的に活動しており、高齢になってから対応を始めるのではなく、昔からの習慣でいい状態が作れていると感じる  
若い時から意識づけるような啓蒙が基本となると感じた

A：事務局（高齢者支援担当）

介護予防事業というのはあくまでも一部でしかない  
やはり習慣に勝るものはない  
科学的に解明されているわけではないが、一般的に人との交流や運動による血流改善などが影響すると言われている

Q：委員

認知症サポーター養成講座について、地域で開催していただきたくさんの目で見守っていただける地域にしていきたい

A：事務局（高齢者支援担当）

サポーター養成講座については、主に講座修了者が行くようになっており、介護事業者が多い  
今年度、塩山高校や10か所程度行っているが、これからも普及に努めたい。

1 1 自由記述

今回初めて自由記述欄を設けた  
こうした意見も踏まえ、庁内の担当課とも情報共有していきたい

Q：委員

皆さんたくさん書いていただいて、率直な意見をいただけた  
こういったものを拾い上げるのも大事だと思う  
広く市民の皆様にも読んでいただけるようにしていただけると良い

A：事務局（介護保険担当）

アンケート結果について、広報誌で高齢者の助っ人記事に交えていくつもりである

Q：委員

介護支援課だけでなく、様々な関係課とも共有し、吸い上げていただきたい

A：事務局（介護保険担当）

情報共有していく

在宅介護実態調査

認定を受けている方を対象とした調査である  
調査対象者本人が記載しているものが減少している

A. 被介護者ご自身について

- ・ 主な介護者については配偶者、子の配偶者が減少、子は増加
- ・ 担っている介護等の内容  
掃除、洗濯、買い物、食事の準備、金銭管理、送迎等が多い
- ・ 施設入所検討について  
現状検討していないが6割
- ・ 介護サービスを利用していない理由  
現状では利用するほどの状態ではないが最も高い

Q：委員

年齢層を見ると老々介護になってきているようである  
その割に介護サービス導入割合が増えていないことを考えると金銭的な問題があるのか

A：事務局（地域包括支援センター）

サービス拒否が多い印象である

Q：委員

高齢化率が高い市ほど、サービスが増えて来ていると思っていた  
2045年には甲州市の高齢化率が50%であると聞いており、それを踏まえて考えて  
いただきたい

B. 主な介護者について

- ・ 介護を理由とする働き方の変化  
特に行っていないが最も多く、次いで労働時間を調整しているが多い  
介護離職0ヤングケアラー支援などが知られてきて、支援体制が充実してきている  
様子が見受けられる
- ・ 災害などの緊急事態での対応について  
避難所まで一人で行けない人が多い
- ・ 手助けが必要な人の情報を地域で共有することについて  
必要であるが8割程度、災害等の意識の高まりが感じられる  
介護者も高齢化し就業についていない方も多く見受けられる状況である  
〈質疑応答〉  
委員意見なし

自由記述について

こちらも庁内で情報共有していく

Q：委員

事務局はこのように多様な意見が出ると予想していたか

A：事務局（介護保険担当）

もっとマイナス意見が多いと予想していたが、きちんと意見していただいている内容も多くありがたい

Q：委員

甲州市での介護サービスは現在足りているということか

A：事務局（地域包括支援センター）

要介護度によって限度額が決められており、使えるサービスがあっても使ってもらえないこともある

自由記述にもあるが、介護者のサポートなども求められており、相談を受けていてもやはり介護度だけでは測れない介護者の心理的負担がある

A：委員

現場感覚としては、介護予防が少なく、半日型のデイサービスが少ない  
一つ撤退すると厳しい面がある

Q：委員

使いたいニーズと、実際の提供可能なニーズが合致していないということか

A：事務局（地域包括支援センター）

山梨市には小規模多機能型サービスがあるが、甲州市にはない  
あってほしいものがないという現状はある

Q：委員

自由記述に使いたいサービスが埋まっており、利用できないといった記述が見受けられる

やはりマンパワー不足が顕在化しており、介護従事者が非常に少ない

甲州市では外国人材を受け入れていることも聞いているが、言葉の壁もあり、非常に問題を感じているが、こういった面もあり、施設が充実してくれない理由の一つと考える

A：事務局（介護保険担当）

広報誌にも掲載させていただいたが、今年度初めて松里小学校で介護が必要な人の体験をしてもらった

その際に、県担当者や、県内事業者から介護の魅力発信をしていただいた  
若い人に対してから啓発活動をしていきたい

介護福祉士の養成学校に依頼し市内で対応できる場所を設け、人材育成に努めたい

(2) 次期甲州市高齢者いきいきプランについて（介護保険担当）

国から認知症施策推進基本計画の策定を通知されており、老人福祉計画、介護保険計画と一体的に策定できるとされている

次期甲州市高齢者いきいきプランに認知症施策推進基本計画の内容を一体的に策定することについて、会に諮っていただく

→全員異議なしのため一体的に策定することとする

(3) その他

小多機、定期巡回・随時対応型訪問介護看護が7年度も公募したが応募なし

次年度も引き続き募集を継続する

小多機、定期巡回・随時対応型訪問介護看護を引き続き募集することについて、会に諮っていただく

→全員異議なしのため引き続き募集することとする

●来年度の説明

次年度は3回を予定、第1回は6月下旬頃を予定

4 閉会

〈第4回甲州市介護保険運営協議会での決定事項〉

次期甲州市高齢者いきいきプランへ認知症施策推進基本計画を一体的に策定する